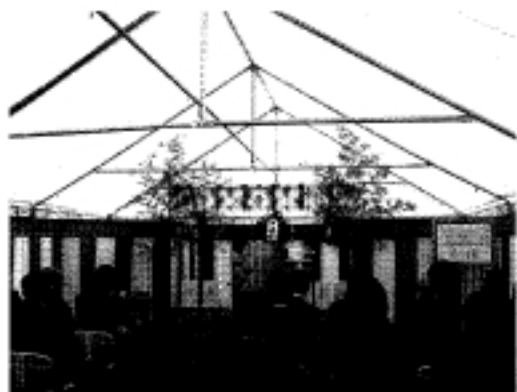


JR貨物

「エフ・プラザ東京新C2棟」の新設工事の起工式を実施

テナントのダイワコーポなど関係者と工事の安全を祈願



JR貨物(本社・東京都渋谷区、田村修二社長)は11月28日、東京貨物ターミナル駅構内で建設するエフ・プラザ東京新C2棟新設工事の起工式を実施した。建築主であるJR貨物、テナントの

ダイワコーポレーション(本社・東京都品川区、曾根和光社長)、設計管理者の安井建築設計事務所、施工者の清水建設、管理会社の東京貨物開発から34人が出席し、工事の安全を祈願した。

従来、JR貨物が大手タクシー会社向けに建設した施設を取り壊し、新たにエフ・プラザ東京新C2棟として物流施設を建設。延床面積1万8603平方メートルの6階建て(RCS造)で、ダイワコーポレーションが借り受ける。来年9月の竣工予定で、ダイワコーポレーションの

「品川営業所」として開設する。

JR貨物では、同施設の賃貸借契約において新たなスキームを導入。施設のテナントが新たに鉄道コンテナ輸送を利用した場合、利用した個数に応じて翌年度の賃料を設定するもの。これにより、関連事業と鉄道事業との相乗効果により、建物賃貸料収入だけでなく、運輸収入の増加も図り、会社経営のさらなる安定化を図っていく。

JR貨物の早瀬藤二常務取締役事業開発本部長は、「C2棟は当社のエフ・プラザ(JR貨物の駅構内にある、荷さばき・保管・流通加工・積替等総合的な物流機能を持つ大規模複合施設)シリーズの一環として、日本交通の立体駐車場として利用されてきたが、契約解除となり、新たに倉



エフ・プラザ東京新C2棟イメージ



車を建設することとなった」と説明。

JR貨物の早瀬藤二常務取締役事業開発本部長は、「C2棟は当社のエフ・プラザ(JR貨物の駅構内にある、荷さばき・保管・流通加工・積替等総合的な物流機能を持つ大規模複合施設)シリーズの一環として、日本交通の立体駐車場として利用されてきたが、契約解除となり、新たに倉庫を建設することとなった」と説明。

2棟では、倉庫の利用者が鉄道コンテナを使うと、量に応じて翌年度の賃料を下げる仕組みを

導入した。当社にとって初めての仕組みとなり、うまく運営していきたい」と述べた。

ダイワコーポレーションの曾根社長は「契約期間は20年で、しっかりと集荷に努めていきたい。単に荷物で倉庫を埋めるというのではなく、微力ながら、当社がJR貨物様の発展(鉄道輸送の拡大)につながるような仕事を取ってきたい」と強調し、来秋の完成に向けて安全施工を願った。

同施設はJR貨物の東京貨物ターミナルに隣接し、東京港大井ふ頭まで車で7分、羽田国際空港まで車で約17分とすべての輸送機関のハブまで30分圏内にある好立地。品川、銀座、渋谷、羽田等が電車で30分圏内にあり、東京税関大井出張所まで徒歩1分で、あらゆる交通アクセスに恵まれたロケーションにある。